

成長へ、ゆとり後押し

「働き方改革」10年取組む

下川運輸／働きやすい職場認証

取り組んできたことが表現できる。「働きやすい職場認証制度」に今春合格し、国土交通省は認証事業者の1社として公表した。鋼材など重量物輸送を手がける下川運輸（本社＝東京・荒川区、下川芳延社長）は、特殊鋼メーカーから工場出荷されるコイルといった線材などや、車関連の部品を関東一円に輸送する。人手不足などへの対応にいち早く待遇面や労働時間の短縮に取り組んできた。働きやすい職場認証は、これまで労働環境を整えてもそれをアピールできなかったものどかしさを解決してくれた。



「認証制度は会社の将来像を代弁してくれた」と話す下川芳延社長（右）と下川誠二専務取締役（左）
8月16日

たとえばハローワーク。下川運輸の求職情報欄には「働きやすい職場」の認証マークが示される。求人申し込み手続きの際、同認証が交付されたことを伝えれば付けられる。ドライバーの労働時間、健康面、安全面など対策を講じる証として他社との差別化が図られると期待する。

「月間輸送量は約1万4千ト。荷扱作業員と運転士が協力し合い、荷主を輸送力で支える」。

下川社長は10年前のGMマノ取得が機だったと話

「顧客の要望に応えるため従業員の定着を図る。ゆとりを大切にする」と。それは、企業風土の醸成をめざした。は人々との姿勢を、職場環境を整えることで示す。その軸としたのが労働時間や待遇だ。

そもそも昔から土日休日を置いていたことは強み。ゆとりを大切にする日。ゆとりを大切にする日。ゆとりを大切にする日。

の時間外労働の平均時間は月90時間。1000時間残業して（体が）もつのか。各営業所を統括する下川誠二専務取締役が振り返る。仕事と暮らしへの意識が変わりつつあることを肌で感じながら削減へとかじを切る。時間外労働の総時間数を他産業なみの年720時間へ。月60時間を目標とした。残業が減れば賃金も減る。懸念を取り払うため残業のあるなしにかかわらず50時間のみなし残業を導入。もちろんそれを越えた場合も残業代は支払う。現在平均は50時間余に改善した。労働時間削減の目的はドライバーの休息期間（8時間以上）の確保だ。取引先からの納品時間指定に対し片道分の高速道路使用を認めてもらった。これを皮切りに、高速道路での帰庫もドライバーに指示する。また出車を遅らせ、その分は高速道路を走り取り戻す。高積みで荷物引き取りに待機が発生すれば、ドライバーは帰宅させ荷扱作業員が荷待ちし積み込み作業を担当する。

そのほか年間休日115日、年5日の有給休暇の完全消化。また年2回の健康診断では結果について産業医が個々に指示することや、40歳以上には脳ドック受診を義務づけるなど健康起因事故防止にも着手する。

時間外労働削減など時

に及び腰になりそうだった。それでも「粘り強く意識改革を行った」と下川専務。費やした時間はそれだけで3年余とい